

(1) 組合だより

組合だより

発行所 中標津農業協同組合・中標津町農業共済組合
発行 昭和54年2月 第56号 印刷・アート印刷株式会社



組合員研修会より



農業所得税申告は青色で

農業所得税申告には概況書(準青色)と標準表(全道の平均的収支)の二通りがあります。最近では農業者の経営規模が拡大されたため、収入も大きくなり税金の納め方にも関心が高まるようになりました。したがって将来は青色申告を目標とした経営をしていただくようお願いいたします。

◎所得税、贈与税の申告はじまる。

昭和五十三年分の、所得税と贈与税の申告と納税がはじまります。この申告と納税の期間は、所得税は、二月十六日から三月十五日まで、贈与税は、二月一日から三月十五日までです。

申告書の書き方や所得の計算の仕方などでご不明の点がありましたら、お気軽に税務署にご相談ください。

相談の時期としては、三月上旬が比較的すいていますので、できるだけ早目に済ませるようになしてください。

理事会の経過

第九回理事会

十二月二十七日開催

議 案

- 一、昭和五三年度団体営草地開発整備事業中標津地区の変更について。
原案どうり決定。
- 二、昭和五三年度道営草地整備事業補助残融資の借入について。
原案どうり決定。
- 三、昭和五三年度地域農政特別対策事業の実施について。
原案どうり決定。
- 四、農地取得資金外の追加導入について。
原案どうり決定。
- 五、道農業信用基金協会への増資について。
原案どうり決定。
- 六、生産物金融貸付金の融資額変更について。
原案どうり決定。
- 七、外部出資（根室生産連農用馬）の減口について。
- 八、負債整理について。
原案どうり決定。
- 九、家畜消流施設の拡充について。
原案どうり決定。
- 十、固定資産の取得について。
原案どうり決定。
- 協 議 事 項
 - 一、道路交通法改定に伴う購買品配達運賃について。
 - 二、農協独自の農機具延払方法について。
 - 三、内部監査制度の管内的意見と方法について。
 - 四、肉牛牧場の状態変更と本組合の取進め方法について。
 - 五、昭和五四年度事業計画の課題について。
- 三、牛乳個岳農家のバルク導入協議の状況について。
- 四、組勘の精算方法について。
- 五、事務所等の給水装置工事について。
- 六、下水道工事施行に伴う構内整備について。
- 七、特対農家の今後の取扱いについて。
- 八、事務所掃除の今後の方法について。
- 九、組勘状況、畜産販売、生乳の実績等について。
- 十、一月二月の行事計画について。
- 十一、農機車輛整備工場について。
- 十二、生乳消費拡大運動対策について。
- 十三、乳検事業の五四年度の状況について。
- 十四、系統家畜市場について。
- 十五、自給特対事業について。

牛乳・乳製品の消費 拡大を進めよう!!

- ❖ バターやチーズでつくる健康、やっぱりママの知恵
- ❖ パパ、スタミナに、ママ美容ボク達健康、牛乳家族。

アメリカ・カナダ

酪農研修視察報告(3)

一、飼料

アメリカ、ウイスconsin州、カナダ、オンタリオ州の酪農は自家生産の飼料—グレーン(エン麦、大麦、コーンの濃厚飼料)と牧草を中心にして自家労働で乳牛を飼養するという経営が非常に多く、牧草としてはアルファルファ、チモシー、プロムグラス混播、コーンはサイレイジ用のほかに実取り用(配合飼料)を作付しています。

「良牛は良草より作られる」この言葉は酪農にたずさわる者にとって良く聞く言葉ですが私達が視察した牧場での飼料が実証してくれました。アルファルファ、チモシー、赤クローバーの混播で作られた乾草はすばらしい品質であり、コーンサイレイジにしても水分の含有量といい匂い、色あいといい最高の品質であった。配合飼料は前記のエン麦、大麦、小麦、コーンの自家生産を出荷販売をしないで乳牛に給餌して生乳のかたちで換金するとういう経営が多く、サイロはサイレイジ用と穀類の貯蔵用と分けて、価格の高い穀類に気密サイ

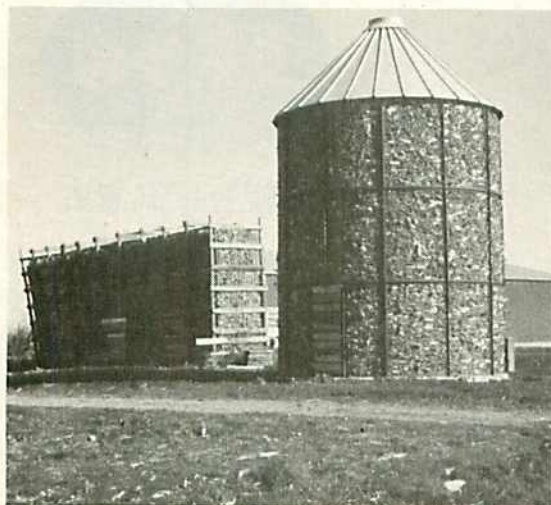
ロが使用されていた。栄養豊かな乾草が好きだけ与えられるのが頑健にして乳量が多く、体型の優美な牛をつくる基本であると思った。日本の酪農の飼料代はアメリカ、カナダに比べると約二倍の価格であるが、同時に日本の生産者乳価もアメリカ、カナダの約二倍の価格です。

カナダのある牧場の飼料配合例
グレーン、トシンの内訳(蚕白一六%)
大麦、エン麦、コーン、小麦 ……八五〇kg
大豆粕、油粕(三八%) ……一五〇kg
購入飼料、ビートパルプ、ミネラル、カルシウム、コブラミール

二、牛乳価格
◎アメリカ
政府の物価抑制策や消費者の圧力などでキロ当り五六円と安い、これはウイスconsin州の生乳価格で、他の州とは価格差が数セントある。生乳価格を決定するのは牛乳販売委員会があつて脂肪率三、五%が基準で〇、一%の上下で増



牛床の境に牛が後足を滑べらして足、腰を痛めないように木の枠又はパイプが設置してある。



アメリカ、ウイスconsin州のデントコーン貯蔵風景

減があり、生産者は乳価に対して発言するだけに限られている。ウイスconsin州はアメリカで一番のミルクベルト(酪農地帯)で生産量の一五%を州で消費し、八五%を他の州に移出している。

◎カナダ
生乳価格キロ当り四八円四〇銭
脂肪率三、四%基準、〇、一%の上下で八〇銭の増減がある。
クオーター(乳量の生産調整)

があり計画生産を実施しております。生産者より選出された数名の代表により牛乳販売委員会(ミルク、マーケティング、ボード)が支配し、乳業会社との話し合いで乳価を決定している。また一九六四年から出荷権制度があつて、個人が乳業会社の株を購入し株主にならないと牛乳を出荷できないという制度で、出荷権を個人が持つと毎年出荷量が定められ、出荷決定量にいたらない生産者は一ヶ月の警告が発せられ、翌月にもいたらない場合一〇%の決定量の削減を申し渡されることになっている。出荷決定量以上に出荷した場合は単価が安く取引され、余剰が出る

場合は各州のミルク、マーケティング、ボードが一体となって中央政府に交渉し総て加工乳としてチーズ、粉乳にして、粉乳は政府が買取りユニセフを通じて開発途上国に援助物資として輸出される。

◎牛乳の消費拡大
牛乳生産量の七〇%は飲用乳、三〇%は加工乳でチーズ、バター、粉乳等に加工する。チーズ、バターは安定した食品で需要の伸びはないが飲用乳については若年層に清涼飲用水、コーラ、ファンタに人気があり一〇年前より一人当りの飲用乳の消費量は減っているの

でヨーグルト類の需要をPRして

乳牛は必ず登録を 乳牛の改良のために

乳牛登録推進月間実施中

(畜産課)

乳牛の登録業務については皆様方の御協力をいただき、登録の推進を計っておりますが、乳牛飼養組合員三二〇戸、一頭も登録していない組合員が九三戸、約三〇%占める現状です。乳牛の登録は人間の戸籍と同じです。良い系統、良い乳牛、すぐれた乳牛もこの登録だけが信用依頼されるもので乳牛の改良を自分でとり進めるのに土台となるものですから最低限度血統が確認できる証明書を持っていなければなりません。

無登録牛を条件さえ揃えば孫の代には血統登録になります。無登録牛を販売し血統登録牛を購入するより皆さんの飼養している無登録牛を初代、二代本登録にする方が皆さんの牛群の改良になるばかりか、経済的で経営安定への近道でもあります。飼養頭数が増えると共に個体販売が多くなります無登録牛であるため販売の際に不利となる場合もありますので全牛登録するようご理解と御協力をお願い致します。尚乳牛登録については各酪農振興会に登録推進員を委嘱しておりますので推進員と相談し登録を実施して下さい。

登録推進員
中標津地区 佐藤 拓氏
依橋地区 佐々木昭夫氏

日下芳昭氏



武佐地区 志賀正男氏
清原賢一氏
土井上信一氏
中司哲雄氏
開陽地区 鈴木 修氏
山崎 隆氏
当幌地区 鈴木祥幹氏
長正路 清氏
俣落地区、第二俣落地区については登録推進員を委嘱しておりますので農協・畜産係に相談して下さい。

登録料
●ホルスタイン種
生後六ヶ月以内 二八〇〇円
六ヶ月以上 五五〇〇円
●ホルスタイン種系
六ヶ月以内 一三〇〇円
六ヶ月以上 一八〇〇円

2月・3月・4月

天気予報

札幌管区气象台

道付近を通り、全道的に風雪の強まる日がある見込みです。平均気温は平年よりやや高く降水量は平年並でしょう。

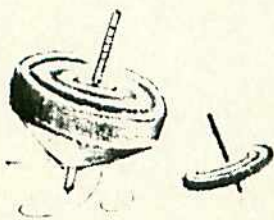
▼三月 大陸の高気圧が時々強まり寒さのもどりがあられるでしょう。しかし、下旬には移動性高気圧が発達してとおり太平洋側を中心に風雪の強まる日がある見込みです。平均気温は平年並かやや低く、降水量は平年並ですが太平洋側ではやや多いでしょう。

▼四月 移動性高気圧が交互に通るようになり、天気は周期的に変わりませんが、二〜三回低気圧が発達して、全道的にあれもようの日があるでしょう。低気圧の前では気温が上昇して融雪が進み河川の増水するおそれがあります。また、低気圧の通過後は朝方の冷えこみが強の日があるでしょう。気温は変動が大きく平年並かやや低く、降水量は平年並でしょう。

二月は温暖な期間と寒い期間がありますが、平均すると気温はやや高い見込みです。三月は季節風が時々強まり寒さのもどりがあられますが、下旬には暖かくなるでしょう。四月は天気は周期的に変わるようになりますが寒暖の変化が大きく春のあらしや冷えこむ日があるでしょう。今後の降雪量は一時的に大雪の降ることがありますが、平均すると平年並みの見込みです。また、期間を通じ北海道付近を通る低気圧の影響をうけやすく、あれもようの日があるでしょう。

〈月別予報〉

▼二月 月はじめと月末には季節風が強まり、寒さのきびしい日がある見込みです。しかし、中頃を中心に比較的温暖な日が多く日本海側でも晴れる日があるでしょう。下旬には発達した低気圧が本



共済組合 診療課より

金属異物による胃炎

ここ数年来診断技術の向上に伴い針金、釘等による胃炎が増加しつつあります。原因は何と云ってもサイレージに含まれている短い針金が多く、これは牧野に落ちていた長い針金が「モア」により切断され二〜四センチの丁度良い長さで餌に混じって飲み込まれることに始まります。牛の反芻（かみかえし）は四つの胃袋のうち二番目の胃袋が強く収縮して内容物を口に押し出す現象を言いますが第二胃の粘膜は蜂の巣状をしているため小さな金属異物がいとも簡単に刺さり込み、反芻時の強い収縮の際に胃壁を突き出ることがあります。まだ粘膜に刺さって第二胃の中にとどまっているうちに軽い食欲不振などの症状が出ますが、この時点で棒磁石を飲ませれば二、三日後には金属物に付着して粘膜に傷つけるのを防ぎ症状が消失しますが、胃壁を突き出してしまうと非常に後が複雑になります。まず腹膜炎は必発の症状で、状態に応じて微熱から四〇度前後の熱が出て、食欲、反芻は殆ど消失し、大なり小なり第二胃は腹膜が横隔

膜に癒着します。更に金属物が移動して心臓近くまで達すると、今度には創傷性心のう炎という治療不能な状態にまで至ります。このように胃壁を通り抜けて金属物が少しでも胃の外に出てしまうと、棒磁石を飲ませたりその他の適切な治療を施しても治らない場合が増えてきます。時々手術をして金属物を取り除いたり、癒着を剝がしたりもしますが、重症の場合にはやはり全治するのは難しいようです。以上のことからもお分かりのように、牛の食欲が落ちた場合、反芻（かみかえし）に注意する必要があります。反芻が停止している時や、微熱（三九度二分位）の時あるいは便秘、下痢を伴っている時などケトージスと少し症状が違うと思つたら早目に獣医に診察して貰い正確な診断治療をしないと手遅れになることがあるので注意しましょう。

尚金属物による消化器病で年間百頭の牛が廃用になっています。

はりきり後継者

本俣 武田 順子 20才



根室支庁と管内4Hクラブ連絡協議会が主催した第四回根室管内青年農業者会議の実践発表で農畜産の部において札幌で聞かれる全道大会の出場権を得る。

昭和五二年、仙美里の農業大を卒業後、現在父母の経営に参画し、酪農経営の改善につとめている。

実践発表の中で、酪農経営の改善は経営記録による実態の把握にあると考え、酪農メモ、記録の帳、土壌分析による土壌改良資材の投入、草地更新などにとりくむ。

経営概況は、家族三人（父母私）、土地三八、六ha、牛舎は四四年にブロックで八五坪、五二年に育成舎として三〇坪を増築、現在経産牛三七頭、若牛二三頭の六〇頭を飼育している。乳量は五二年度一四九し、五三年度一七六しを搾乳。

今後の改善点（目標）として

- (1) 計画的草地の更新
- (2) 放牧地への土壌改良資材の投入
- (3) 舎飼期（十一月〜五月）の乳量向上のため、越冬飼料の品質向上と充分な量の確保
- (4) 乳量の秋落ち防止
- (5) 新乳検事業による経済検定と個体能力の向上（駄牛淘汰）
- (6) 経営記録による実態把握と内容検討
- (7) 経営改善を含め営農計画、営農実践。以上を含め集約的経営（二〇〇し）乳牛、粗飼料、両面の単位当り生産向上を図り生産性の高い酪農経営の実現に努力する。



根室管内青年農業者会議の研究討議

1 月 乳 質 検 査 成 績 表

中 標 津 農 業 協 同 組 合

組合員名	上旬	中旬	下旬	組合員名	上旬	中旬	下旬	組合員名	上旬	中旬	下旬	組合員名	上旬	中旬	下旬
当 幌 地 区				高 藤 祐 蔵	1	0	0	国 見 正 雪	2	0	1	佐 々 木 武 雄	1	0	0
飯 島 光 五 郎	1	0	1	連 田 弘	0	0	0	国 見 実	0	0	0	日 下 一 芳	0	0	0
飯 島 精 一	0	0	0	永 谷 雄 幸	1	0	1	齐 藤 哲 雄	1	0	1	福 島 広 光	1	0	0
奥 田 勝 佳	1	1	1	長 繩 弘	0	0	0	齐 藤 栄 七	1	0	0	加 茂 正 毅	0	0	0
奥 田 岩 男	0	1	0	麻 郷 地 忠	1	0	0	伊 藤 七 郎	2	2	1	佐 々 木 政 行	0	0	0
中 山 安 寿	0	0	0	麻 郷 地 忠 勝	1	0	0	千 葉 清 一	1	0	0	三 友 盛 行	0	0	0
山 川 健 三	1	1	1	小 針 晴 信	0	0	0	村 井 直 行	1	1	0	高 島 貞 作	0	0	0
阿 部 俊 勝	0	0	0	花 川 秀 一	0	0	0	山 崎 正 喜	0	0	0	福 島 信 一	1	1	0
鈴 木 祥 幹	0	0	0	古 沢 亀 治	0	1	0	後 藤 田 信 夫	1	0	0	古 田 起 雄	1	0	0
西 垣 丈 夫	0	2	0	花 川 稔	0	0	0	齐 須 安 雄	1	0	2	本 田 萌	1	0	0
小 原 治	0	0	0	今 井 秀 和	0	0	0	今 井 靖 清	2	0	1	中 村 敏 夫	0	0	0
吉 田 繁 行	0	0	1	東 原 正 広	0	0	0	山 田 良 太 郎	1	0	0	真 野 勇	1	0	1
竹 村 満 夫	0	1	0	岡 部 実	0	0	0	房 川 喜 延	1	1	1	多 田 俊 夫	2	1	1
高 橋 常 次	1	1	0	渡 辺 善 行	0	0	0	笹 淵 二 郎	0	0	0	小 岩 正 一	1	1	1
筒 井 留 雪	0	0	0	松 隈 健 二	1	0	1	井 上 亮 夫	2	2	2	伏 見 哲	1	0	0
筒 井 良 秋	0	0	0	小 林 義 忠	1	0	0	笠 井 剛	0	0	0	中 川 一 平	1	0	1
室 井 太 吉	0	0	1	古 瀬 イ セ	0	0	0	赤 堀 岩 男	1	1	1	武 佐 地 区			
安 田 康 正	0	0	0	藤 本 久 雄	1	1	1	鈴 木 敏 夫	1	1	2	丹 羽 孝	0	0	0
山 田 一 男	0	0	0	小 川 清	0	0	0	俵 橋 地 区				丹 羽 賢	0	0	0
松 田 昌 介	1	0	0	佐 藤 道 嘉	0	0	0	名 越 成 夫	1	1	0	亀 井 泉	0	0	0
舟 田 正 明	1	1	1	佐 藤 末 美	2	0	2	佐 藤 清	0	1	1	中 上 哲 弥	0	0	0
菊 地 良	0	0	0	佐 藤 拓 弘	1	1	1	乾 守 夫	0	1	0	上 原 德 保	0	0	0
遠 田 要 三	0	0	0	佐 藤 永 雄	0	0	0	乾 洋	1	0	1	工 藤 正 義	0	0	0
西 山 隆 一	2	1	2	佐 藤 束	0	0	0	伊 東 武	0	0	1	舟 橋 清 高	0	0	0
長 正 路 正 義	0	0	0	望 月 幸 男	1	0	0	大 山 富 雄	1	1	1	酒 井 清 志	0	0	0
大 野 富 夫	0	0	0	白 築 政 博	0	0	0	山 下 孝 二	0	0	0	目 黒 雅 隆	0	0	0
吉 成 は な 子	1	0	0	武 田 勇	0	0	2	北 川 栄 治	0	0	1	工 藤 重 美	0	0	0
福 村 守	0	0	1	高 橋 敏 夫	1	1	0	水 本 正 二	0	0	0	児 島 喜 一	2	1	0
遠 藤 弘 成	0	1	0	熊 倉 彦 吉	0	0	0	水 本 一 三	0	0	1	児 玉 光 彦	1	0	1
笠 原 金 吾	0	0	2	小 林 茂 夫	0	0	0	山 本 正 八	0	0	0	坂 口 亀 一	0	0	0
唐 崎 幸 司	0	0	0	阿 部 正 六	0	0	0	榎 田 英 雄	0	1	0	白 田 稜	0	0	0
中 標 津 地 区				佐 藤 三 男	0	0	0	穴 吹 貞 明	1	1	2	新 谷 正 治	0	0	0
綏 坂 欣 一	1	0	0	長 淵 貞 義	1	1	1	佐 藤 き 子	0	0	0	井 口 精 一	1	2	0
綏 坂 恭 民	0	0	0	開 陽 地 区				佐 々 木 文 作	2	2	1	川 上 茂	1	1	0
吉 川 晴 久	1	0	1	土 井 上 昭 男	1	1	1	野 口 忍	0	0	0	長 谷 川 寿	0	0	0
滝 場 光 明	0	0	0	向 館 金 吾	1	0	0	太 田 功	0	0	0	花 尻 武 雄	0	0	0
久 保 慶 一 郎	0	0	0	山 田 輝 男	2	2	2	岡 次 郎	0	0	0	中 条 由 治	0	0	0
久 我 良 夫	0	0	0	船 越 政 雄	0	0	0	金 子 安 有	0	0	0	中 条 啓 一	0	0	1
正 城 純 一	0	0	0	浅 野 ト ミ 子	1	1	2	高 野 国 雄	0	1	1	奥 村 保 章	2	1	1
荒 昭 一	0	0	0	吾 妻 寅 男	0	1	1	中 林 勇	0	0	0	壹 陶 信 二	0	0	0
桜 井 誠 造	0	0	0	鈴 木 嵩	2	2	2	工 藤 隆 弘	0	0	1	高 橋 昌 信	0	0	0
佐 々 木 繁 雄	1	0	1	桜 井 精 治	0	0	0	赤 波 江 清	0	0	0	中 塚 秀 夫	0	0	0
佐 藤 信 義	0	0	0	高 橋 寅 之 助	0	0	0	沢 口 正 志	0	0	0	黒 田 正 夫	1	1	0
奥 村 武 雄	2	2	2	中 本 栄 二	0	0	0	桜 井 義 雄	0	0	1	藤 原 勝 一	0	0	0
阿 部 忠 次 郎	0	1	2	丸 田 良 夫	0	0	0	大 西 秀 良	0	0	0	秋 山 実 太	0	0	0
三 森 章 司	0	0	0	鈴 木 重 蔵	1	0	0	大 西 英 明	0	0	0	佐 藤 春 行	0	0	0
川 手 輝 雄				高 橋 一 男	1	0	0	福 島 昭 憲	2	0	1	佐 藤 一 広	0	0	0
下 山 恵 市	0	0	0	高 平 幸 夫	0	0	0	下 川 原 秀 子	0	0	0	清 原 賢 一	0	0	0
石 崎 多 門	1	0	0	中 本 要	1	0	1	三 輪 貞 夫	0	0	0	湯 山 稔	1	1	1
林 仁 一 郎	0	0	0	半 沢 利 平	0	0	0	西 山 一 義	0	0	0	湯 山 幸 男	0	1	1

(単位：千円)

種別	区分	52年度実績			計画に対する進捗比率		前年同期との増減
		52年3月末	52年12月末	増減	53年度 (B) (A)	52年度	
			(D)		(B) (A)		(C) - (D)
貯金		2,515,888	2,966,503	450,615	98.4%	98.8%	429,086
	(内組勘預り残)	(105,057)	(159,757)	(54,700)	(84.6)	(159.0)	Δ 32,258
貸付金	貸付金	2,624,485	2,888,119	263,634	100.6	99.0	300,217
	(内プロパー貸付)	(1,166,411)	(1,220,238)	(53,827)	(114.7)	(104.1)	(201,257)
	(内組勘貸越金)	(328,568)	(247,079)	(Δ 81,489)	(494.1)	(70.5)	(173,048)
	受託資金	2,428,255	2,942,180	513,925	101.4	99.3	648,660
	計	5,052,740	5,830,299	777,559	101.1	99.2	948,877
預金		1,712,238	2,104,969	392,731	96.0	100.0	396,872
借入金	借入金	2,383,982	2,242,177	Δ141,805	82.8	82.4	112,483
	(内当座借越)	(780,283)	(380,905)	(Δ 399,378)	(57.4)	(47.5)	(41,900)
	設備借入金	162,978	175,553	12,575	100.7	143.4	(Δ 36,524)
	計	2,546,960	2,417,730	129,230	83.6	85.0	75,959
預金ネット		931,955	1,724,064	792,109	111.1	132.4	354,972
長期共済保有(満期)		1,867,850	2,093,950	226,100	100.4	98.5	254,250
" (保障)		5,742,250	6,969,750	1,227,500	99.7	101.7	1,347,450
販売取扱高	牛乳		2,413,866		80.2	84.5	189,972
	家畜		410,467		105.3	117.1	102,251
	農産物		471,705		99.2	89.8	40,597
	計		3,286,038		85.4	88.3	332,820
購買供給高	資材店舗		1,633,224		80.2	75.6	97,529
	給油所		291,077		73.6	81.9	Δ 10,290
	生活店舗		787,249		85.3	85.3	55,390
	計		2,711,550		81.0	78.8	142,629
自己資本	出資金	358,895	360,760	1,865	98.2	94.9	29,150
	諸積立金	50,462	63,388	12,926	100.0	100.0	24,019
	計	409,357	424,148	14,791	98.5	95.9	53,169
固定資産	有形固定資産	365,955	470,905	104,950	110.9	125.0	Δ 35,734
	外部出資	88,639	93,834	5,195	111.2	97.4	26,151
	計	454,594	564,739	110,145	111.0	119.4	Δ 9,583

(9) 組合だより

昭和53年度 事業の進捗状況

※第三、四半期(12月末日)の進捗状況と前年度同期の比較

種別	区分	53年度計画			53年度実績		
		金額	前年比率	前年差額	53年3月末	53年12月末	増減
		(A)				(B)	(C)
貯金	金	3,450,000	115.0%	451,281	2,998,719	3,395,589	396,870
	(内組勘預り残)	(150,000)	107.9	(11,064)	(138,936)	(127,499)	(Δ 11,437)
貸付金	貸付金	3,166,632	106.4	192,840	2,973,792	3,188,336	214,544
	(内プロパー貸付)	(1,238,941)	94.8	(Δ 67,001)	(1,305,942)	(1,421,513)	(115,571)
	(内組勘貸越金)	(85,500)	25.5	(Δ 249,001)	(334,501)	(420,127)	(85,626)
	受託資金	3,537,449	116.0	490,433	3,047,016	3,590,840	543,824
	計	6,704,081	111.3	683,273	6,020,808	6,779,176	758,368
預金	金	2,605,500	117.9	396,575	2,208,925	2,501,841	292,916
借入金	借入金	2,842,460	105.4	147,524	2,694,936	2,354,660	Δ 340,276
	(内当座借越)	(734,436)	88.1	(Δ 99,000)	(833,436)	(422,805)	(Δ 410,631)
	設備借入金	138,689	79.0	Δ 36,864	175,553	139,029	Δ 36,524
	計	2,981,149	103.8	110,660	2,870,489	2,493,689	Δ 376,800
預金ネット		1,871,064	136.0	495,575	1,375,489	2,079,036	703,547
長期共済保有(満期)		2,337,700	111.7	245,550	2,092,150	2,348,200	256,050
" (保障)		8,334,500	119.1	1,340,550	6,993,950	8,317,200	1,323,250
販売取扱高	牛乳	3,244,896	106.9	209,826		2,603,838	
	家畜	486,500	101.5	7,392		512,718	
	農産物	516,874	93.1	Δ 38,094		512,302	
	計	4,248,270	104.4	179,124		3,628,858	
購買供給高	資材店舗	2,156,200	95.2	Δ 106,621		1,730,753	
	給油所	380,000	102.5	9,438		280,787	
	生活店舗	986,250	100.8	8,695		842,639	
	計	3,522,450	97.5	Δ 88,488		2,854,179	
自己資本	出資金	396,895	101.3	5,405	391,490	389,910	Δ 1,580
	諸積立金	87,407	137.8	24,019	63,388	87,407	24,019
	計	484,302	106.4	29,424	454,878	477,317	22,439
固定資産	有形固定資産	392,684	94.6	Δ 22,263	414,947	435,171	20,224
	外部出資	107,845	110.9	10,651	97,194	119,985	22,791
	計	500,529	97.7	Δ 11,612	512,141	555,156	43,015

第十八回根室地区

農協婦人部大会報告

副部長 田 中 マツノ

去る十一月六〜七日の二日間、川湯ニュー北二館を会場に第十八回根室地区農協婦人部大会が開催されました。

管内より一六〇名、中標津から二十八名出席しました。

第一日は分科会として家の光大会、第二日日本大会では前日の分科会報告がありこれに基づいて討議されました。

組織・営農・健康生活・若妻問題この四分科会に分れて熱心に討議されましたので内容を簡単に報告致します。

第一分科会 組織問題

婦人部未加入者の完全解消を期し婦人部の全戸加入を進めるには組織は常に流動性を持ち魅力的であること。又生活と営農を守るためには婦人部が話し合いを重ねることそのために(1)目的達成のためには専門部を設けて活動目標を明確にして必ず実行すること。(2)役員はそれぞれ分担制でやるこ

と。(3)時代に合った行動をするこ
と。(4)未加入者に呼びかけること
全戸加入を希望していなながらも強
制的加入は無理であり、やる気の
ない人が入った場合マイナスの面
が出てくる。むしろ魅力ある活動
をすることにより自然と加入する
ようになるのではないか。

農畜産物の消費拡大に伴う婦人
部組織としての学習活動のあり方
については、乳製品のギフト券を
農協で扱うようにしてはどうか。

又消費は自から実践すべきである
そのために料理教室を開いたり、
食肉の取りまとめを実施している
毎日三度牛乳を家族全員が飲んで
いると言う意見に対し、助言者の

先生は生産者自から運動をするこ
と。料理講習会には一般消費者に
も呼びかけ積極的に開催する必要
がある。

第二分科会 営農問題

営農の今後の見通しについて。
外国と日本の乳価をくらべれば、
日本の乳価は高水準であるので、

営農を通じて所得を高めるには生
産コストの引下げを検討してゆく
ことが課題である。経営規模の拡
大にともなう農機具経営施設に
対する過剰投資が問題になってい
る。自分の能力に合った導入を図
るべきであり、一種の流行にまど
わされたり、セールの甘い言葉
にのらないこと。機械の整備保管
に力を入れ、長持ちさせる努力が
必要である。

後継者問題については、いかに
して息子の経営意識を高めるか、
それには家族が常に話し合いをし、
息子に内容を知らせることが大切
である。農村花嫁については、私

達母親は所得を高めるため、なり
ふりかまわず働いているが、娘は
その疲れた姿を見て、私はその様
な生活はしたくないと嫌う傾向が

あるので、生活環境を改善して「
農家だからこそこの様なゆとりの
ある生活が出来るのだ」という努
力をしなければいけない。



第三分科会以下は
次号に掲載します

分科会討議

